

令和5年度の学校評価

本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ すべての生徒の自己有用感と自己効力感を育む学校作り ○ すべての教職員が意欲をもって働ける環境作り
----------	--

項目	重点目標	具体的方策	留意事項
行事 企画部	<p>総務</p> <p>①PTA活動の円滑な運営と無理のない活動の推進。PTA会員の積極的な学校行事への参加。 ②防災に関する基礎知識を高め災害発生時の確な対応・行動が実践できる人材の育成。 ③ホームページ、東高だより、きずなネットを有効に活用し、保護者・地域に対する広報活動の活発化。</p>	<p>①きずなネットによる発信により、保護者への認知度を高め、学校行事やPTA行事への参加率が高まるようにする。 ②シェイクアウトを含めた防災に関する避難行動様式の確立を目指す。学校生活のあらゆる機会を通して、防災・減災・ボランティア精神を養う。 ③広報媒体の質を高め、新鮮にアピールできる内容となるように工夫する。</p>	<p>①学校行事の案内などをきずなネットで発信し、保護者への連絡が確実に届くようにする。 ②避難訓練を実施し、避難行動様式の確立を目指す。保護者に対しては、きずなネットに登録してもらい、緊急時の連絡体制を整えるようにする。 ③ホームページで学校行事の様子や生徒の活動など、情報を積極的に配信していくようにする。</p>
	<p>特別活動</p> <p>①生徒会活動の充実。 ②稲東祭の充実。 ③奉仕活動の推進。 ④広報活動の充実。</p>	<p>①校則見直しの活動や様々なボランティア活動へ参加し活動自体を充実させるとともに、生徒会役員以外の生徒も参加できる活動を実施する。 ②生徒人数やクラス数に応じた企画を行い、多くの生徒が活躍の機会を得るように実施する。また、稲東祭実行委員を中心に、意欲のある生徒の活躍の場を増やす。 ③交通安全マナーアップ作戦、学校周辺の清掃活動など、ボランティア活動を計画的に実施する。 ④「稲東だより」や、本校YouTubeチャンネルを活用し、本校や生徒の魅力を発信する。</p>	<p>①生徒会役員以外の生徒が参加できる校則に関する議論の場を1回以上設定する。 ②全校生徒の8割以上が満足し、稲東祭実行委員の8割以上が達成感を得られる行事にする。 ③積極的にPTA等との連携を行う。 ④年4回、「稲東だより」を発行する。生徒をYouTubeチャンネルの動画作成に参加させるなど、インターネット上での広報活動をより充実させる。</p>
生徒 支援部	<p>生徒指導</p> <p>①基本的な生活習慣を確立させ、好感の持てる身だしなみをする事により、社会性の養う。 ②心を育て、規範意識を高める生徒指導の推進 ③安心・安全な学校生活の確保 ④学校と保護者が連携した指導体制の構築</p>	<p>①遅刻指導を通し、時間に対して意識をさせることにより、基本的な生活習慣を確立させる。また身だしなみ指導を通して、好感の持てる身だしなみとなるように指導する。 ②個人面談を充実させ、生徒理解を深める。また人権教育や道徳教育を重視し、道徳心や自己有用感を高められるように指導する。 ③いじめ防止基本計画に基づき、組織体制を構築する。また定期的な巡回により生徒に安心感を与える。登下校ではできるように、交通安全指導を通して交通ルールやマナーを理解できるように指導する。 ④観察や面談により察知した生徒の変化を保護者や教員間で共有し、保護者の協力を得て、支援や指導にあたる。</p>	<p>①段階的な遅刻指導・身だしなみ指導により、生徒把握及び指導の徹底を図る。 ②生徒の言葉に耳を傾け、生徒一人一人に合った指導を行う。また、自己有用感を高められる論説を行う。③学校生活アンケートの実施や日頃の巡回を行い、いじめの未然防止や早期発見に努める。また、交通事故の現状を理解させる。 ④生徒情報の共有を図り、役割分担をして指導にあたる。</p>
	<p>保健厚生</p> <p>①諸検診の円滑な進行。 ②教育相談体制の充実。 ③学習環境の整備・美化、ごみの減量、安全点検の推進。 ④心身の健康問題の早期発見・早期対応を図るための健康観察の充実。</p>	<p>①2学年同一日に実施するため、体育館、武道場を有効活用し、コロナウイルス感染防止を考えながら、円滑に実施する。 ②学年・分掌とスクールカウンセラーの連携強化のため、教育相談委員会において該当生徒の支援方法を検討し、情報についてフィードバックを行う。 ③学習環境美化とごみの減量を図る。ごみの持ち帰りを啓発し、ゴミ箱は各フロア設置にする。人員減少のため、清掃活動は全員で行い、清掃分担区域の統合を考える。 ④朝の健康観察を行い、心身の健康問題の早期発見に生かす。また、健康観察の事後措置（健康相談・保健指導等）を行い、健康状態の把握に努める。</p>	<p>①同時帯で保健調査を実施するため、時間を守るとともに、正確に検診が行われるようにする。 ②個人情報も多く含むため、情報管理に留意する。また、情報共有の際には、共有範囲を検討する。 ③ごみの減量化は同時に資源化を図ることを意図する。帰りのST前の一斉清掃に変更する。 ④健康観察の結果をフィードバックし、有効活用することを考慮する。</p>

項目	重点目標	具体的方策	留意事項
教務	①生徒の学習への取組意欲を高める魅力ある授業づくり。 ②生徒の学習意欲を喚起できる考査の実施。 ③図書館の充実。 ④校務支援システムの利用による教員の業務軽減。	①授業研究週間等を利用し、各教科へ言語活動や探究活動、ICTを取り入れた授業展開例などを提示し、授業方法・指導方法を共有できるようにする。 ②事前に生徒に評価方法を明示するとともに、考査時は教室の環境整備と考査資料の正確な作成に努める。 ③読書に親しみを持たせ、生徒の学ぶ意欲を喚起していく。 ④システムの操作方法についての現職研修を実施する。	①各教科へ言語活動や探究活動や、ICTを取り入れた授業展開などを提示し、実践を促す。 ②考査の資料を正確に出力するために複数の教員によるチェック体制を継続して実施する。 ③興味関心を持つような本を多く揃え、図書委員を中心に図書館の活性化につなげる。 ④新しいシステムの操作研修を定期的を実施し、校内のペーパーレス化を図っていく。
進路指導	①生徒、保護者にとって望ましい将来像設計(フューチャーデザイン)の実現を目指した進路指導の確立。 ②学年団と日頃からの情報交換に加えて進路検討会(3年生)、補習等の充実。 ③生徒の志望や適性に応じた試験制度の活用の推進。	①進路講演会・進路総合の充実を図り、進路の手引きを有効に利用する。外部模擬試験や進路適性検査を適切に活用し、事後指導を充実させる。 ②進路検討会では、適切な資料を用い、議題を明確にした上で、活発な議論ができるようにする。適切に補習や外部模擬試験等への参加を呼びかける。 ③生徒理解を深め、適性を考えた上で総合型選抜などの入試制度を活用する。就職試験や公務員試験に向けた指導も充実させる。	①進路総合は、必要に応じて外部講師を活用する。進路の手引きは、今年度の実態や入学試験の内容を十分に活用する。模擬試験は、受験の必要性を生徒、保護者に認識するよう働きかける。 ②進路検討会は、教員間の共通理解が深まるように議題設定を考える。補習は、その目的を生徒に理解させ、必要に応じて受講させる。 ③面接等を通じて生徒の意向の確認を行い、進路実現に向けて必要な行動を早期に促す。入試制度や求人の情報を、本人や保護者に適切に提供する。
第2学年	①基本的な生活習慣の確立と集団規律の維持 ②学校内外で、学習に意欲的に向かう姿勢を育てる。 ③主体的に進路学習に取り組む ④部活動や、学校行事への積極的な参加 ⑤学習環境の整備	①時間を守る、挨拶をする、身だしなみを整えるなど、基本的な社会生活を丁寧に指導する。 ②ICTを活用した授業など、創意工夫をこらした授業を展開し、意欲的に学ぶ姿勢を身につけさせる。 ③2年次から卒業までを見通した進路指導を行う。進路総合を通して、自らの興味関心がある分野など気づきを積み重ね、自身の将来像を具体的にイメージさせる ④部活動や学校行事に積極的に参加させ、充実感や達成感を得られるよう指導する。学校行事では、他者のために積極的に動く姿勢を身につけさせる。 ⑤日常的な環境整備を率先し、日々の清掃活動を丁寧に指導する。教室掲示などのこまめな更新で正しい情報を生徒へ伝える。	①教員が様々な場面で声を掛けることで、生徒自らが行動に移せるようにする。 ②日常生活と教科学習を結びつける工夫を施し、学校外でも学ぶ姿勢を持てるように指導する。 ③多様な進路があることを示し、積極的に興味がある分野を調べ学習し、働くことを具体的にイメージできるよう指導する。 ④こまめに生徒に声を掛けることで、積極的な参加を促す。 ⑤整った環境を維持できるように指導する。
第3学年	①他者を思いやる心を育てる ②最高学年としての自覚を持たせる ③9割の生徒が進路を決定して卒業できるように、主体的な進路実現を支援する ④授業規律を正し、生涯、学習を続けられるような習慣をつける ⑤言われたことをするだけでなく、自らの気付きからの行動を増やす	①社会全体における一人ひとりの役割を意識させ、周りの環境への感謝が芽生えるよう働きかける。また、できる限り具体的な場面を想定して気遣いを身に付けさせる。 ②新入生が入ってこない中、行事などで先輩との接点を増やし、人を助けるということを通して自己肯定感を持たせる。 ③進路の情報を積極的に与える。特にやりたいことが決まらない生徒に対して、具体的な行動で指示をするようにする。 ④学習する習慣や、新たな知識を自ら得られるような取り組みを授業の中でも行うようにしていく。 ⑤見えない気遣いや、行動してくれた生徒を積極的に褒め、どんなことを考えて生活するとよいのかを教えていく。良い行動への承認を全教員で行う。	①人間関係が苦手な生徒が多い中、社会に出てからも集団での生活は続くので、相手の立場を考えられることが必要だと伝え続ける。 ②先輩の姿を見て真似をしたように、先輩も自分たちを見ていることを意識させる。 ③進学する生徒は受験科目、就職する生徒は分野が決まらないことには進路指導が具体的にないといけないので、できる限り早い段階で様々な機会を用意する。 ④社会人になっても新しい勉強が始まることを伝え、そのために学習するという習慣、その方法を知っていなければいけないことを理解させる。 ⑤全体に良い習慣付けをさせたい場合は全体の前で褒めたり、逆によくない行動は個別で時間をかけて注意するなど、生徒一人ひとりが正しい判断ができるようサポートしていく。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学びに向かう力を育て、学びを持続させるための授業改善について ・ICT機器の有効な活用 ・組織的運営による働き方改革について 	